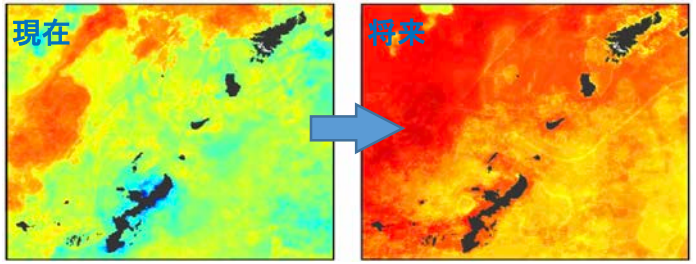
【成果概要】0-3 国立公園等の生態系及び生態系サービスへの気候変動影響に関する調査

調査結果の概要

■ 平成30年度の成果

- 国立公園管理計画書等の収集や有識者・現地事業者等へのヒアリングを通じ、将来予測に必要となる公園の課題等の基盤情報を収集・整備した。
- ヒアリング結果の分析等により評価対象とする生物およびその生態系に関わる主な産業・生態系サービスを選定した。
- 対象指標に対する気候変動影響の予測（高水温によるサンゴ白化の予測（右図）など）を行った。

水温等によるサンゴ白化の将来予測
（RCP8.5、21世紀末、SICAT05モデル）



出典：国立環境研究所資料

■ 明らかとなった課題

公園名	課題
白神山地	・評価対象（ブナ）の空間分布に対する気候シナリオデータの空間解像度のギャップの検討が必要 ・今後変化が予測される自然資源を利用した観光動態に関する情報の入手が必要
妙高戸隠連山	・ライチョウ生息域における植生の空間分布に対する気候シナリオデータの空間解像度のギャップの検討が必要 ・今後変化が予測される自然資源を利用した観光動態に関する情報の入手が必要
足摺宇和海	・ 公園内外の地域毎、島毎の環境勾配を表現するため、高解像度の海洋流動モデル（SICAT02）の現況および将来予測データの整備が必要 ・ 対象とする生物（サンゴ・大型海藻）や食害生物等の分布変化予測を行うための分布推定モデルの構築用のデータとして、対象海域における分布状況や環境要因応答に関する知見の収集が必要
奄美群島	

■ 平成31年度の調査計画（案）

	調査項目	H31年度											
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1	明らかになった課題に対する追加調査	→	→	→	→	→	→						
2	影響評価の実施	複数の気候シナリオを用いた影響評価の実施 →					→						
3	適応策の検討							→	→				
4	成果のとりまとめ									→	→		